企画セッション | 部会・連絡会セッション | 材料部会

[2M_PL]今後10年に向けた国内照射施設を活用した原子力施設の技術高度化のための研究と開発方向性

座長:若井 栄一(JAEA)

2020年3月17日(火) 13:00 〜 14:30 M会場 (共通講義棟 S棟3F S-31)

[2M_PL04]総合討論（パネルディスカッション）

*長谷川 晃[1]、*藤井 克彦[2]、*塙 悟史[3]、*石橋 良[4] (1. 東北大、2. INSS、3. JAEA、4. 日立)

これまで国内の材料試験炉として利用されてきたJMTR（JAEA）の廃止決定がなされ、既存照射施設の活用と照射技術研究の発展及び将来の新研究炉の検討を含めた諸課題は、原子力材料分野における最重要課題の一つである。本セッションでは、既存の国内照射施設を活用していくため、現在再稼働手続き中で今後中性子照射場としての活用が期待される常陽炉（JAEA）や、大学等が保有する電子線、イオン照射施設及び最近の国内廃炉プラント材料を活用した照射材研究について現状や今後の展望を紹介する。これらの講演を受け、専門家を交えたパネル形式での総合討論を行い、原子力材料分野の現状と今後に向け、照射施設、ユーザーそれぞれの立場から、照射施設、廃炉材などの研究の重要性やその意義等を含め、原子力材料や機器の健全性や高経年化の評価に関する高度化研究及び、材料照射科学を発展させていくための議論を行う。

©日本原子力学会